



# 緑西LETTER

**vol.9**

## 緑西直言



### 「高齢者の疾患」

上ヶ原病院院長・  
元兵庫医科大学血液内科主任教授 **藤盛 好啓**(S54卒)

緑西会の皆様こんにちは。私は兵庫医科大学の2期生で、2020年の3月に兵庫医大を定年退職し、同4月から上ヶ原病院に勤務させていただいており、緑西会に参加させていただきます。

兵庫医科大内では第二内科、先端医学研究所、がんセンター、輸血部、血液内科といろいろなところを渡り歩いてきましたが、メインは血液疾患の臨床・研究でした。上ヶ原病院でも、理事長の大江与喜子先生が血液疾患を病院の診療の柱の一つとしています。上ヶ原病院着任後は、外来のみならず入院の主治医として血液疾患の診療に参加しており、かつて1983年から2000年までの現役の血液内科時代を思い出しつつ、新規薬剤も使いながら血液疾患治療に取り組んでいます。上ヶ原病院での臨床は新たな経験の日々となり、私なりに楽しく新鮮な気分で取り組んでいます。

さて、高齢化社会では、骨髄異形成症候群やリンパ腫など血液疾患の頻度が増えています。肝炎ウイルスの撃退により肝癌が減少し、ピロリ除菌により胃癌が減少する時代になぜ血液がんが増えてくるのでしょうか？実は近年の研究によると、65歳くらいから骨髄造血細胞に遺伝子異常が生じてきて次第に蓄積されてくるのが解ってきました。この遺伝子異常が骨髄異形成症候群や白血病の原因になります。血液がんは、造血（幹）細胞の遺伝子異常により起こるのです。したがって最近では、遺伝子異常を標的とした新しい薬剤が開発され、いわゆる分子

標的療法が行われています。特にイマチニブは慢性骨髄性白血病の分子標的療法の先駆けとなりました。骨髄異形成症候群や白血病においても分子標的療法が効果があることが解ってきて臨床に応用されてきています。最近固形腫瘍のがんゲノム医療が急速に広がり、血液がんのゲノム医療は少し遅れを取っていた感がありますが、急性白血病等の新たな分子標的療法の時代に入りつつあります。

高齢化社会では、他にもいろいろな問題が起こってきます。高齢化により起こる誤嚥もとても大きな問題です。人間は声を出して話したり、歌ったりするために喉頭の位置が猿や犬や猫よりずいぶん下に移動し、声帯から出た声を反響させる空間が広くなっており、空気と食べ物の通り道がクロスする空間が大きく、そのため食物や水分が気管に入りやすい構造になっているようです。おおまかに人間は発声ができる代わりに誤嚥が多くなったのでしょうか。加齢とともに、嚥下、発声、呼吸等の精密な制御がうまくいかなくなり、誤嚥が多くなります。誤嚥性肺炎は高齢者の重要な死亡原因になっています。病棟でも誤嚥性肺炎を何度も繰り返して入院してくる高齢者の患者さんも多くあります。口腔内ケア、嚥下リハビリテーションなども重要になってきます。

このように高齢化とともにさまざまな疾患を惹起しやすい状態になり対応が必要となります。私は、上ヶ原病院で高齢者の血液臨床に取り組んでいますので、今後ともよろしくお願い致します。

## 卒業して24年



明和病院 眼科部長  
辰巳 久子 (H9卒)

緑西会員の皆様、平素は大変お世話になりありがとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染症一色であったという間に終わってしまいました。会員の皆様もまだまだ大変な中であることと思います。早く終息することを願っております。こんな時ですがこの度は保科先生より依頼を頂きまして、原稿を書かせていただくことになりました。

私は平成9年の卒業でその後、兵庫医大眼科に入局しました。眼科を選んだのは父が眼科医であったこともありますが、ポリクリの時の手術見学で眼できれいだなと思ったことも選んだ理由の一つでした。その頃は今の研修医制度と違っていましたので卒業してすぐに眼科入局。2年眼科研修医として勉強しました。その後いくつかの関連病院、大学病院での勤務等を経て8年前より明和病院の眼科部長として勤務しております。

父が尼崎で開業していたのでその跡を継ぐという選択肢もあったのですが、本心はわかりませんが父が継いでも継がなくてもどちらでも良いよと言って

くれていました。そして今まで幸いにも周りの人達にも恵まれ、病院勤務ならではの苦労もありますが、その時その時働いていた環境にそれなりに満足していたので気付けば現在まで病院勤務を続けることになっていました。

現在勤務している明和病院では医局人事で若手の先生がやってきます。学生時代の話も聞いていても随分変わったなと思うこともあります。部活の先輩の話も聞いてみると、それ私の同級生だ。ということもあり、学年が大分ちがっていても出身校が同じだと共通の話題があり面白いなと思います。でも1、2年で入れ替わりなので折角慣れてきたところに異動になってしまいますので大変なことも多いです。でも質問されると答えないといけなかったり自分ではあまり疑問に思っていなかったことを聞かれたり勉強になることがとても多いです。そして困ったら兵庫医大が近いのですぐ相談でき、とても良い環境で仕事をさせていただいているなと思っています。やはり母校のすぐ近くであるということはとても心強いです。

これからも頑張っていきたいと思っております。今後もお世話になることあると思いますが皆様どうぞよろしく願いいたします。

## リハビリテーションと憂いとCOVID-19



西宮協立リハビリテーション病院  
リハビリテーション科 部長

**勝谷 将史** (H15卒)

緑西会の皆様、こんにちは。平成15年卒業の勝谷将史と申します。学生時代は剣道部と軽音楽部に所属しており、部活動に明け暮れた学生時代でしたが、無事に医師免許を取得し、現在は社会医療法人甲友会 西宮協立リハビリテーション病院に勤めております。兵庫医科大学リハビリテーション医学講座にも所属し、非常勤ではありますが学生の皆様への講義やポリクリの実習など医学教育にも携わらせていただいております。

リハビリテーション科というとマイナーなイメージもありますが、現在は専門医制度における基本領域にもなっており、世界一の高齢化率となっている日本において、社会ニーズの高い専門領域と自負しております。リハビリテーション専門病院である当院は外来機能を有する回復期リハビリテーション病院であり、120床を有しています。西宮市、芦屋市、尼崎市からなる阪神南圏域の山手、甲山の近傍に位置し、阪神間のリハビリテーション医療を必要とする急性期病院からの患者さんを早期に受け入れ、在宅生活への復帰を支援しています。

さて、リハビリテーション領域もこの1年、少なからずCOVID-19の影響を受けています。リハビリテーション医療の目指す方向性は障害の診断と治療から患者さんの活動を育み、社会参加を実現することです。しかしながら療法士によるリハビリは身体接触を伴うため、感染リスクを恐れた患者さんは外来リハや、介護保険でのデイケア、訪問リハなども中断、さらには過度な自粛により屋外への散歩の習慣を止めてしまったりする方も多くみられました。「自粛」という言葉により多くの患者さんの活動を

制限し、社会参加の機会を奪われているのです。特に第1波における緊急事態宣言の期間はCOVID-19に関する十分な情報もなく、マスコミの過剰な報道により多くの方が感染の恐怖に慄き、日々の活動を自粛し、人との交流も希薄になりました。また病院や介護施設での面会も禁止、介護施設でのリハビリも中止となるところがほとんどで、今まで何とかリハビリにより活動を維持していた方々の身体能力が明らかに低下していくことを目の当たりにしました。

COVID-19の感染拡大は社会に大きなインパクトを与え、生活様式に大きな変化をもたらしました。身体障害を持つ方々にとってリハビリの機会は身体機能を維持するために必要不可欠な要素であるにも関わらず COVID-19はその機会すら奪うことになっているのです。

もちろん高齢者や基礎疾患のある患者さんや利用者さんのいる病院や施設では感染リスクを減らすことは重要です。しかしながらリハビリの機会が減ることで身体機能が低下してしまえば元も子もないわけです。活動を育み社会参加を勧めたいリハビリとCOVID-19に関する感染予防、ともすれば対立する方向性の中でリハビリテーション科医師としてはジレンマを抱えながら憂いを感じる日々となっています。

この一年でリハビリテーションにおける感染予防の方法論も学会レベルで指針が出され医療、介護の現場でも感染対策はしっかりと実行されるようになってきました。ワクチン接種もスタートし少し明るい未来を感じています。COVID-19に関してはまだまだ安心できるレベルではないですが感染対策とリハビリテーションを両立させながら人々が移動の自由を得て、社会交流を再開し、障害のある方も社会の中で積極的に活動を育むことができるような新たな社会様式が構築されることを切に願い、私自身も医療者として地域社会へ貢献できればと思います。

## SFな時代



兵庫医科大学整形外科学  
主任教授 橋 俊哉 (H3卒)

令和元年8月から本学の整形外科学主任教授を拝命しております。平成3年卒業、第14期生です。本学の同窓会、緑樹会の西宮支部会である緑西会の会誌に寄稿する機会を頂きました。地元西宮の同窓生の皆様には日頃からお世話になっております。ありがとうございます。

さて昨年来からのコロナ禍であり、皆様も大変ご苦勞されていることと存じます。災厄の中、改めて読んだのが小松左京著「復活の日」です。細菌を隠蓑にした猛毒のウイルスが世界中に蔓延し、生き残った人類は南極大陸の各国の越冬隊のみとなり…というお話です。現代の災厄はそこまでではないですが、世界中にパンデミックが広がっている(現実では南極の基地まで)現状は、SF (scientific fiction) が現実となっているようです。SFは未来の科学が進んだことを前提に素晴らしい話書かれていて、それを夢見心地で楽しんだり、現実では有り得ない恐怖のディストピアの話に冷や冷やしたりするのが良いところですが、それが現実となってくると自分たちがSFの世界に入り込んでしまったような気がします。皆がスマートフォンを持ったり、超電導でエアー・スケートボードが実現したり、リニアが建設中だったり、さらにドローン技術でSFの定番である空を走るエアーカーももうすぐ実現しそうだったり、確実に現実にはSFに近づいていくでしょう。コロナ対策でも、リモート会議はもはや普通ですし、本院の玄関でも非接触で「正常な体温です。」とタブレットが教えてくれます。本稿が出る

頃には新型コロナに対するワクチン接種も本邦でも始まっているでしょう。ワクチンは各社開発中ですが、本院でも投与予定となっているのはPfizer社がBioNTech社と共同開発したmRNAワクチンです。世界初のmRNAワクチンであり、mRNAを投与して体内でコロナウイルスの表面のスパイク蛋白を作らせ、これにより抗体を作らせ免疫を獲得する驚くべき技術です。これなら今後どんな新種のウイルスが現れても、その遺伝子配列さえ解ればワクチンができます。世界で行われたPhase 2/3のトライアルは約4万人が参加して行われました。ワクチン接種者(約2万人)ではコロナに感染したのはわずかに8人、コントロールのプラセボ(約2万人)では162人で有効率95%  $[(1-8/162) \times 100]$ です。接種部位の疼痛や頭痛などの副反応もあり、今後の運用を見守る必要はありますが、素晴らしい効果です。ワクチンによりT細胞が活性化することも確かめられています。「復活の日」でも人類は復活します(とんでもない事でウイルスが撲滅されますが・・・後はネタバレになりますので)。SFのように進んだ最新の医学でこのパンデミックを乗り切れたらと思います。

### 文献

小松左京. 復活の日. 角川文庫.

Polack FP, et al. Safety and efficacy of the BNT162b2 mRNA Covid-19 vaccine. N Engl J Med 2020;383:2603-2615.

Sahin U, et al. COVID-19 vaccine BNT162b1 elicits human antibody and T<sub>H</sub>1 T cell responses. Nature 2020;586:594-599.

## 「諦めずに時間ある限り今を懸命に頑張り続けること」



兵庫医科大学  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科  
主任教授 **都築 建三**(H8卒)

平成8年卒の都築建三と申します。2020年10月1日に兵庫医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室の主任教授を拝命いたしました。私を育てていただきました本学に大変感謝しております。母校の主任教授就任は大変光栄に存じます。

私は愛知県出身です。当時は中学受験をせずに県立高校を受験することが主流な三河地方で育ちました。1990年に本学に入学した頃は、東海地方から本学への進学は少なく、同期生も私一人でした。甲子園が大好きでしたが、西宮の地理もわからず、また三河弁で話す私は直に聞く関西弁を理解できずに外様扱いをされ、入学した数年間はカルチャーショックを受けて「大変なところへ来てしまった」と痛感していました。学生時代は一人暮らしであったことから、「諦めずに時間ある限り今を懸命に頑張り続けること」が最大の保身の術であると信じて、必死に医学部の勉強に取り組みました。一生懸命に行ったことは報われ、無事に本学を卒業できました。私を励ましてくれるよき同期生にも恵まれて大変感謝しております。持つべきものは友人と思います。今では、私の人生の中で最も長くなった西宮は第二の故郷として、とても気に入っております。私の成功談と失敗談を本学の後輩に伝授できましたら幸いです。

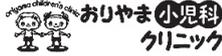
私は母と長兄が耳鼻咽喉科医であった影響も受け

て耳鼻咽喉科を専攻しました。卒後は愛知県に帰ることも考えましたが、卒業式の謝恩会で阪上雅史前主任教授に勧誘いただき、本学に残りました。阪上先生には、研修時代から主任教授の現在まで、医師として診療のみならず勉強・研究の大切さをご教授いただきました。その教えから、他学に負けないためには、武器である「論文」を作成し続けることが非常に重要であると感じております。

大学院時代は第二解剖学教室で野口光一先生のご指導を賜り、「誰が行っても同じ結果が得られる科学の神髄」をご教授いただき、医学博士を取得致しました。その後、フロリダ大学へ2年間1か月間留学して基礎研究、3つの関連施設で耳鼻咽喉科全般にわたる手術手技と地域医療の研鑽を積んで参りました。2006年度に本学に戻りましてからは、主に鼻科学、鼻副鼻腔疾患に対する鼻科手術と嗅覚障害の診療・研究・教育に従事しております。

当教室は関連施設も含め本学卒業生が多く、教職員同士の連携も強いことが特徴です。これらの長所を活かしつつ、ぬるま湯に浸かった井の中の蛙にならないように規制心をもって、学生時代に言い聞かせてきた「保身の術」と諺「塵も積もれば山となる」を信念に少しずつ確実に教室を発展させて参ります。本学、教室、地域医療、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学のさらなる発展のため、全力で尽くさせていただきます。所存です。

今後ともよろしくごお願い申し上げます。



### おりやま小児科クリニック



折山 文子  
(S54卒・卓球部応援団)

「子どもお母さんも元気になれる  
クリニックを目指しています」

高座町1-62 **Tel: 72-5500**

### 安岡クリニック



安岡高志・眞奈美  
(S58卒・映画研究会)

真鍋貴重(H20卒ラグビー部)  
・蘭(H21卒 硬式テニス部)

石劔町15-1 **TEL:71-3985**

### 平岡内科

平岡 敬介  
(S58 卒)



「人工透析一筋、盆も正月もなく  
頑張っております。」

小松町 1-5-12 **Tel:40-2525**



### 国夫新生クリニック

大西 国夫  
(H3卒・準硬式野球部)



新しく生まれ変わった  
国夫にご期待ください!

甲子園口2丁目15-14 **Tel:67-1574**

医療法人社 団

### すぎもとクリニック

杉本 智彦  
(平成6年卒・アーチェリー部)



なんでも  
ご相談ください!

室川町5-25 **Tel:76-0008**

内科・循環器内科・消化器内科・外科

### はまおかクリニック

濱岡 守  
(H16 卒・スキー部)



リョクニシ広報部のエース

浜甲子園 1-1-9 **Tel:47-3353**

#### 編集後記

今回で緑西レターも第9号を数えるに至りました。三寒四温とはよく言ったもので、肌寒い日々の中に少しずつ春めいた日も散見されるようになってきました。

一方で依然新型コロナ感染症による種々の影響が続いており、先生方もいろいろご不便な日々を送られているかと思えます。またワクチン接種についてもなかなか思い通りに進まない様子で、先

の见えない長期戦が続きそうです。

しかし本号では、各医療機関でご活躍される先生方を始め、続々と教授に着任される本校卒業生の先生方のお話を拝見し、とても希望に満ちた気持ちになりました。

緑西レターでは次号以降も、更に元気になっていただくような活力溢れる記事を掲載させていただく予定です。ご期待ください。 濱岡 守 (H16卒)

#### 兵庫医科大学同窓会緑樹会西宮支部

緑西会会員数 150名

(R3.3.1現在)

#### 緑西LETTER

発行日/令和3年4月1日 発行人/大江与喜子

代表世話人/吉岡 優

印刷所/株式会社小西印刷所